

商工会議所 LOBO (早期景気観測)

- 2009年6月調査結果 -



2009年6月30日

<結果のポイント>

6月の全産業合計の業況DIは64.2と、前月に比べ+1.5ポイントと、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。業況は一旦底を打ったとみられるが、水準は依然として厳しく楽観を許さない。またマイナス幅の縮小ペースはやや鈍化している。

業種別では、製造業のみ悪化した。製造業からは、世界的な景気悪化の影響により、受注や売上の減少、雇用の過剰感など引き続き厳しい状況を訴える声が多い。非製造業では、依然として厳しい水準ながら、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

資金繰りDIや仕入単価DIについてはマイナス幅が緩やかに縮小し続けているものの、売上の激減などから、採算DIは低水準に止まっている。各地からは、採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下が広がっているとの声が多く寄せられている。

公共工事の前倒し実施について、国(地方局)や地方自治体により進捗程度が異なるとの声が多く寄せられた。また、定額給付金については、プレミアム付商品券等の利用を通じて効果が表れているとの声がある一方、業種間の差が大きく効果は一時的ではないかとの声もある。

先行きについては、公共工事に期待する声が圧倒的に多かった。一方、雇用情勢の悪化や設備投資の減退など需要の低迷等により、景気の底割れや長期停滞を懸念する声が出ている。ボーナス減少による個人消費の減退や、秋以降の新型インフルエンザの流行を懸念する声もあった。

----- 調査要領 -----

調査期間 2009年6月17日～23日

調査対象 全国の407商工会議所が2588業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業:383 製造業:616 卸売業:235

小売業:736 サービス業:618

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりや意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算:(好転) - (悪化) 売上:(増加) - (減少)

【本件照会先】産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:Sangyo1@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

業況DIは、マイナス幅が4カ月連続で縮小

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、64.2となり、前月に比べ+1.5ポイントと、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。業況は一旦底を打ったとみられるが、水準は依然として厳しく楽観を許さない。またマイナス幅の縮小ペースはやや鈍化している。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、製造業のみ悪化した。

景気に関する声、当面する問題としては、各地から、公共工事の前倒し実施について、国（地方局）や地方自治体により進捗程度が異なるとの声が多く寄せられた。また、定額給付金については、プレミアム付商品券等の利用を通じて効果が表れているとの声がある一方、業種間の差が大きく効果は一時的ではないかとの声もある。先行きについては、公共工事に期待する声は圧倒的に多かった。一方、雇用情勢の悪化や設備投資の減退など需要の低迷等により、景気の底割れや長期停滞を懸念する声が出ている。ボーナス減少による個人消費の減退や、秋以降の新型インフルエンザの流行を懸念する声もあった。サービス業からは、燃料価格の上昇を懸念する声もあった。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) 好転 悪化

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員

- ・「公共事業の前倒しで仕事が増え、売上は下げ止まったと思われるが、先行きは楽観できない」(一般工事業)
- ・「前倒しをしているとは思えない」(土木工事業)
- ・「仕事があっても、採算割れの仕事ばかりである」(塗装工事業)

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員

- ・「底打ち感は出始めているが底がいつまで続くのか予測できない」(織物製造業)
- ・「売上の見通しがたつ事業所が増加」(電子部品製造業)
- ・「造船関連では、新造のキャンセルがあちこちで出始めている。今後、厳しい局面になる」(船舶製造・修理業)

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員

- ・「食品原材料・加工卸では売上増加。他の業種では減少が続く」(各種商品卸売業)
- ・「消費者の低価格志向が業界全体にダメージを与えている」(衣服・日用品卸売業)
- ・「得意先も徐々に状況が悪化し、貸倒引当金も増さざるを得ない状況。採算面にも影響が出ている」(建築材料卸売業)

【小売業】

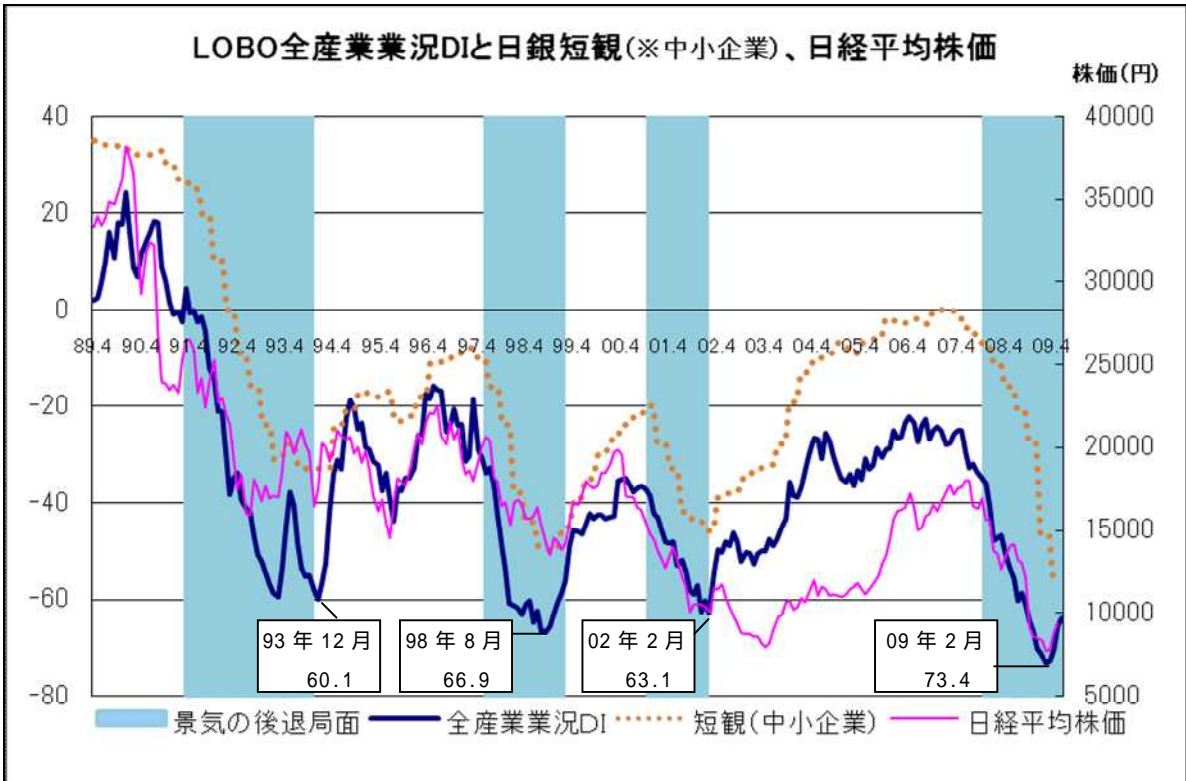
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員

- ・「在庫品の一掃大売り出しが他店も含め前倒しされている。それを予想した買い控えが見られる」(百貨店)
- ・「定額給付金の効果で一時的に良い時期もあったが、消費者の財布の紐は固く、客単価は思うように上がらなかった」(その他の小売業)
- ・「ボーナスの減少もあり消費の改善は見込めない」(商店街)

【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員

- ・「客室料の下落が続き、満室であっても売上目標に達しない」(旅館)
- ・「資金繰りについては、一時の厳しい状況からは好転した」(美容)
- ・「大手業者が官公庁入札において驚くほどの低価格で落札」(建物サービス業)



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、64.2と、前月に比べると+1.5ポイントと、マイナス幅が縮小した。依然厳しい水準ながら、4カ月連続でマイナス幅が縮小している。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で依然厳しい水準ながら、製造業を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(7月~9月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が48.3と、昨年同時期の先行き見通し(52.1)に比べて4ポイント程マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売業を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

業況DI(前年同月比)の推移

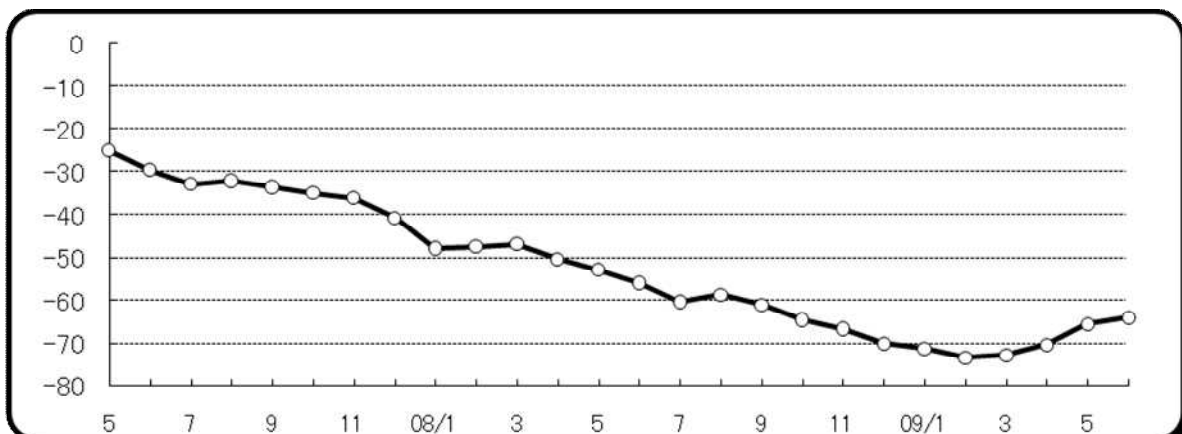
	09年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	71.3	73.4	72.8	70.4	65.7	64.2	48.3 (53.9 / 52.1)
建設	73.2	75.8	72.1	70.9	71.6	66.7	46.8 (60.8 / 60.5)
製造	72.5	75.6	73.5	74.4	69.1	70.6	46.4 (51.3 / 50.4)
卸売	71.6	71.1	70.5	66.7	66.2	61.8	42.4 (50.0 / 44.8)
小売	70.6	71.5	75.5	70.9	66.2	63.4	54.3 (55.9 / 54.2)
サービス	69.6	72.6	70.2	66.9	57.7	57.3	46.7 (51.3 / 48.6)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

()内左側(網かけ)は前月5月の先行き見通しDI

()内右側は昨年6月の先行き見通しDI

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上DIは、62.0となり、前月に比べると+1.2ポイントと、依然厳しい水準ながら3カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売業、小売業を除く、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月ベース)が43.2と、昨年同時期の先行き見通し(39.7)に比べ約3ポイント以上悪化している。

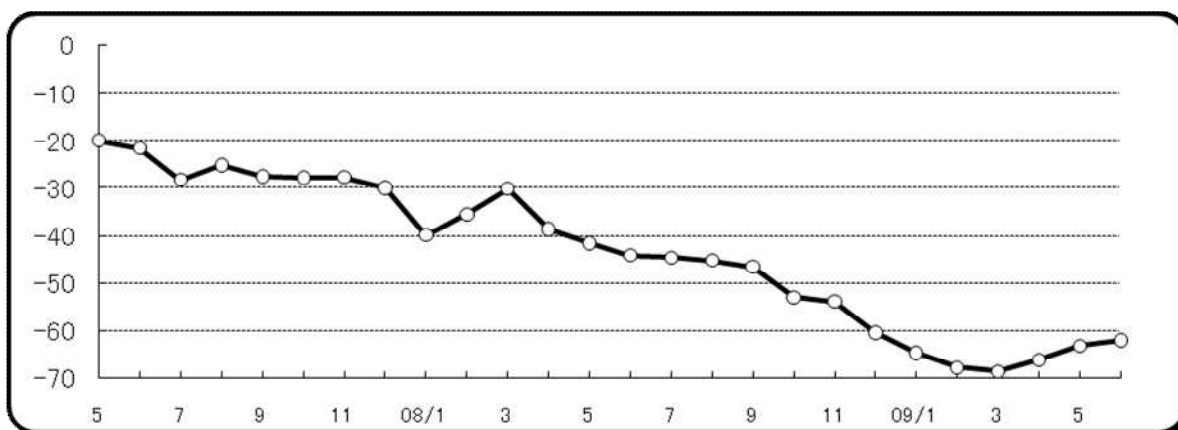
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設業を除く、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	09年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	64.7	67.7	68.5	66.2	63.2	62.0	43.2 (50.0 / 39.7)
建設	69.4	68.2	64.8	68.2	69.3	60.3	42.9 (51.9 / 54.5)
製造	65.4	72.3	68.7	70.3	68.2	65.9	39.3 (45.5 / 32.8)
卸売	60.1	57.8	68.5	60.9	53.8	61.1	33.3 (43.1 / 31.2)
小売	63.8	67.7	72.1	65.9	60.8	64.6	51.2 (53.3 / 44.1)
サービス	64.0	66.5	66.7	63.2	60.5	56.2	42.1 (52.1 / 35.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
 ()内左側(網かけ)は前月5月の先行き見通しDI
 ()内右側は昨年6月の先行き見通しDI

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、60.9となり、低水準に止まっている。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、小売業、サービス業を除く、他の3業種で拡大した。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月ベース)が46.5と、昨年同時期の先行き見通し(48.8)に比べて2ポイント以上マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売業、小売業を除く、他の3業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

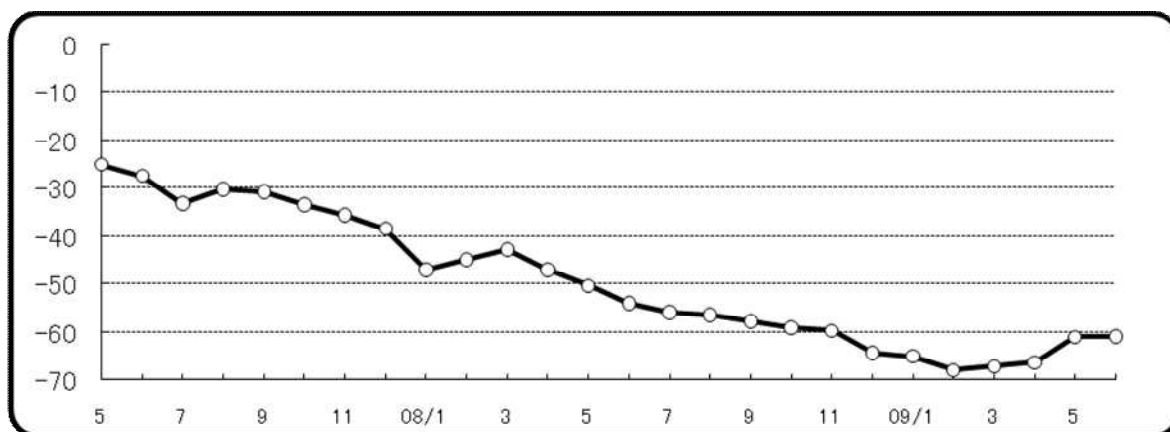
	09年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	65.1	67.9	67.2	66.3	61.0	60.9	46.5 (51.6 / 48.8)
建設	68.5	70.8	67.0	70.5	64.7	67.1	50.6 (55.5 / 60.1)
製造	67.8	73.6	71.6	73.6	68.2	68.3	46.0 (51.4 / 49.4)
卸売	59.5	55.2	60.3	56.9	53.8	56.3	38.2 (43.8 / 35.1)
小売	62.3	66.5	67.4	64.4	59.3	58.4	49.6 (53.2 / 48.2)
サービス	65.7	67.0	65.2	61.9	56.0	53.3	43.9 (50.4 / 47.0)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月5月の先行き見通しD I

()内右側は昨年6月の先行き見通しD I

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	09年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	45.8	48.5	48.1	46.9	43.1	42.7	36.8 (38.5 / 32.9)
建設	51.6	59.2	57.7	56.4	51.3	50.9	44.3 (45.4 / 46.6)
製造	52.6	54.2	53.2	57.3	52.7	56.6	45.4 (47.6 / 35.7)
卸売	43.0	41.1	43.8	41.2	40.1	35.1	27.6 (32.4 / 25.4)
小売	38.6	40.2	40.3	39.2	34.8	32.9	29.8 (31.9 / 25.3)
サービス	44.3	47.8	46.8	40.7	38.2	35.9	33.9 (34.8 / 32.2)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、42.7となりマイナス幅が4カ月連続で縮小した。産業別にみると、製造を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計は引き続きマイナス幅が縮小する見通し。産業別にみても、すべての業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	09年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	31.1	28.0	25.7	15.4	13.6	11.6	11.8 (10.8 / 55.3)
建設	35.0	34.1	29.6	19.7	22.3	18.5	17.2 (16.8 / 63.5)
製造	29.3	28.4	26.8	15.6	12.3	10.1	12.5 (10.1 / 59.0)
卸売	19.6	18.0	17.2	18.8	11.8	8.3	5.6 (9.8 / 51.9)
小売	30.4	27.2	23.9	11.4	9.8	7.1	6.9 (7.0 / 51.0)
サービス	35.8	28.4	27.9	15.5	14.4	15.2	15.7 (12.4 / 52.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは11.6となり、引き続き上昇感弱まっている。産業別にみると、サービスを除く、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計はほぼ横ばいで推移。産業別にみると、製造、サービスを除く、他の3業種で上昇感が弱まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月5月の先行き見通しD I

()内右側は昨年6月の先行き見通しD I

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	18.1	20.2	20.0	21.9	21.2	18.7	16.5 (18.5 / 8.3)
建設	39.6	37.4	34.5	34.5	39.5	36.5	29.9 (36.3 / 23.7)
製造	27.5	28.7	28.6	33.0	31.7	28.4	22.5 (21.1 / 8.6)
卸売	17.0	18.8	20.7	23.9	17.9	17.4	17.5 (19.4 / 8.5)
小売	5.4	8.2	8.4	11.8	10.7	9.0	8.1 (10.0 / 2.5)
サービス	9.7	14.5	14.7	13.6	11.9	8.3	10.4 (13.4 / 4.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、 18.7となり過剰感は弱まった。
産業別にみると、すべての業種で過剰感が弱まった。
- 【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売、
サービスを除く、他の3業種で過剰感が弱まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
()内左側(網かけ)は前月5月の先行き見通しD I
()内右側は昨年6月の先行き見通しD I

【2009年6月の景気キーワード】

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。製造業からは、「操業時間の短縮から雇用環境に厳しさが広がりつつある」(新居浜・一般産業用機械製造業)、「雇用調整助成金に係る教育訓練を行っている」(川口・鉄素形材製造業)、「4勤3休の企業が大半」(高崎・自動車・附属品製造業)、「経費節減が厳しい中で、いよいよ人員整理まで踏み込むか検討している」(三島・建設・鋳山機械製造業)卸売業からは、「製造ラインの3分の1を止めて、雇用調整助成金を活用し、しのいでいる。体力勝負の出口が見えず不安」(浦安・鋳物金属材料卸業)、「売上・粗利の減少によりリストラ効果が出ない」(鹿児島・各種商品卸売業)小売業からは、「雇用の問題が身近になっている」(金沢・商店街)などの声が寄せられている。

経済対策に対する期待感

定額給付金や高速道路料金値下げなど政府が打ち出している大型経済対策による景気底入れへの期待感が引き続き寄せられている。建設業からは、「補正予算の効果に期待」(帯広・一般工事業)、「経済危機対策として公共工事の前倒し実施が盛り込まれているため、前年に比べて発注は多かった」(米子・一般工事業)「官公庁の前倒し発注に期待」(長崎・一般工事業)製造業からは、「環境対応車の部品を製造している会社のみが上向きで、まだまだ、先行きの見通しが見つからない」(西尾・鉄素形材製造業)「高速道路値下げで売上が多少増加した」(高松・他の食料品製造業)小売業からは、「定額給付金や地域振興券、エコカー、エコ家電がどのように消費を喚起するか注目している」(札幌・百貨店)などの声が寄せられた。

一方で、「公共工事の前倒しはまだない」(渋川・一般工事業)「上期発注と言われているが、今のところ発注件数は少ない」(直方・一般工事業)といった景気対策の早期実施を求める声も引き続き多かった。

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下を危惧する声が建設業を中心に多く寄せられた。建設業からは、「公共工事について採算にあわない低価格受注が多く見られる」(静岡・一般工事業)「公共工事の前倒し実施で受注量は前年に比べ多くなったが、低価格受注により採算割れの状況が多く見られる」(米子・一般工事業)「仕事があっても採算割れの仕事ばかりである」(鎌倉・塗装工事業)製造業からは、「仕事量確保のための低価格受注が多い」(松戸・建設建築用金属製造業)卸売業からは、「消費者の購買意欲が低下し、さらに低価格志向になっている」(京都・衣服・日用品卸業)小売業からは、「競争激化による安売り合戦で収益性が低くなっている」(焼津・百貨店)サービス業からは、「客単価が下がり業界内での過当競争もあり厳しい」(土別・クリーニング)といった声が寄せられた。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 4月	受注の大幅な減少	雇用情勢のさらなる悪化	先行きに対する期待感
5月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	新型インフルエンザの影響
6月	雇用情勢の悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】(特徴的なコメント)

産 業	概 況					
	D:値(前月比) 好転 悪化					
建 設	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	<p>「公共工事の前倒しに期待」(一般工事業)「受注は増加傾向。ただし、一件当たりの受注金額は減少傾向」(土木工事業)「公共工事の前倒し発注により工事量は増えているが、その後の反動を懸念。需要の先食いによって終わって欲しくない」(建築工事業)「公共工事の発注量に期待をしているが、民間工事は未だに停滞」(電気工事業)</p> <p>「公共工事への依存度が高い地方建設業者は悪化の一途」(一般工事業)「公共工事の減少、単価の上昇難」(管工事業)「今年に入っても住宅産業は依然厳しい状況。建築確認申請も伸びていない」(建築工事業)</p>					
製 造	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	<p>「在庫調整が終わり、顧客からの発注が増加傾向。最悪の状況は脱し、好転に向かっている」(工業用プラスチック製造業)「自動車関連は、在庫調整が終了し5月以降は増産予定や新型車の投入等回復の兆しがあるが、先行きは依然不透明で厳しい」(自動車・附属品製造業)</p> <p>「原材料価格の下落に伴い販売価格が低下し、値下げ圧力が強い」(その他のプラスチック製品製造業)「一部に明るさは見え始めたが、業況は依然厳しい」(ブリキ缶等製造業)「仕事量の確保を目的とした採算にあわない低価格受注が多い」(建設用・建築用金属製品製造業)「年内は厳しい状況が続く」(通信機械器具)</p>					
卸 売	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	<p>「売上は横ばい」(農畜産水産物卸売業)「市内の高級マンション建設により新築物件が動いている」(建築材料卸売業)</p> <p>「買い控えと低価格品への移行が進んでいる」、「中央では景況の底打ち感があるが、地方では不況が進行している」(ともに各種商品卸売業)</p> <p>「顧客からは翌日納品を求められ、仕入元への支払いは3日後。顧客からの入金は1カ月分まとめて請求書を作成した後、翌月入金など資金繰りが厳しい」(農畜産水産物卸売業)「小売店が減少し、売上や粗利益も減少」(食料・飲料卸売業)「石油価格の上昇が、業界へ波及することを懸念」(家具・建具等卸売業)</p>					
小 売	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	<p>「中元商戦は、前倒し実施により前年を上回るペースで推移。しかし、全体としては法人・個人ともに需要縮小を予想している」(ともに百貨店)「6～7月は賞与、ボーナスの時期なので夏期の衣料品、飲食店の売上増を期待」(商店街)</p> <p>「婦人ファッション、インポート商品、宝飾・絵画など高級品の売上不振が続いている」、「定額給付金を意識した企画を打ち出したが、結果はいまひとつだった」(ともに百貨店)「酒販業界への異業種からの参入が多く、転廃業が続出し組合組織の弱体化が進行」(その他の小売業)</p>					
サービ ス	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	<p>「今のところ売上は良好」(スポーツ施設)「宿泊客がやや増加」(旅館)「高速道路料金値下げ効果が出て来ている」(食堂、レストラン)</p> <p>「秋から冬にかけての新型インフルエンザの流行を懸念」(旅館)「定額給付金が給付されたが、その効果を全く感じない」(理容)「大きく落ち込んだ貨物量の回復にはかなりの年月を要すると予想。売上回復の兆候が見られない」(その他サービス業)</p>					

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、北陸信越、四国を除いた6ブロックでマイナス幅が縮小している。東北では、製造業・小売業を中心に採算や雇用、北陸信越では建設業を中心に採算、四国ではサービス業を中心に採算が悪化している。

ブロック別の向こう3カ月(7月～9月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北陸信越、関東、近畿を除く6ブロックでマイナス幅が縮小している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	09年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全 国	71.3	73.4	72.8	70.4	65.7	64.2	48.3 (53.9 / 52.1)
北 海 道	63.5	70.8	60.7	62.9	58.8	56.4	46.2 (45.9 / 57.9)
東 北	72.9	70.9	71.9	72.7	64.6	66.9	47.9 (54.6 / 54.8)
北陸信越	75.7	72.9	73.3	70.7	58.7	60.1	46.6 (50.9 / 42.9)
関 東	71.6	77.0	73.8	71.9	67.4	66.7	50.4 (53.0 / 49.5)
東 海	70.3	71.9	70.3	77.0	75.4	70.1	49.3 (55.8 / 60.0)
近 畿	75.3	79.8	77.5	74.1	74.2	70.3	55.4 (60.8 / 53.5)
中 国	74.4	77.7	81.2	74.1	77.2	71.9	52.2 (59.8 / 56.2)
四 国	63.6	59.8	66.4	49.6	47.7	49.2	33.6 (47.0 / 54.9)
九 州	69.8	69.5	71.8	71.6	60.9	58.9	46.0 (54.3 / 47.2)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月5月の先行き見通しD I

()内右側は昨年6月の先行き見通しD I